



スー振で世界婦人を送つて
世つちのど白紙で煮之の清
白に接したをれやけ赤ぎれ
で悩むさうだね冬の果鴨
はアレが一苗こたへる○木下は
也此、片山は秋多野ををつげ
西川がス片のど分離して別ん何
かゆさうさうだ、群を割接し麻
の如しだ○ち地もけニ三るは寒く
てへつをれて長る、ハレのぬ所○の反
射を元々とやつる、中々接取とぬ
カし鏡りると直ぐ病まさはうさうさ
併しけを一冊の読得が、教子の信に
まさるとさうのど中実みやつてる
六月一ハイはかゝるたらう○僕的事
は冬しくしウマで牛足不陸だつたり
は地(移)して以来、大によくあつた
三月十一日 土佐中村町
幸徳伸郎